

第2章 調査結果の概要

〔 本文における調査対象者については、小学校5年は「小学生」、中学2年は「中学生」、高校2年は「高校生」という。 〕

1 祖父母との接触頻度（問4）

祖父母との接触頻度についてみると、『ほとんど毎日会う』が33.2%と最も高く、次いで『年に数回会う』（24.5%）、『月に1～2回会う』（19.0%）などの順となっている。

小学生、中学生、高校生別にみると、『ほとんど毎日会う』の割合が各々最も高く、次いで小学生では『月に1～2回会う』、『年に数回会う』、中学・高校生では『年に数回会う』、『月に1～2回会う』などの順となっており、『ほとんど毎日会う』、『週に1回以上会う』の割合は、小学生で最も高く、『年に数回会う』の割合は、高校生で最も高くなっている。

性別にみると、男性は『ほとんど毎日会う』が女性より高くなっている。

性別、小学生、中学生、高校生別にみると、『ほとんど毎日会う』の割合は、男性では高校生で最も高く、女性では小学生で最も高くなっている。

都市規模別にみると、『ほとんど毎日会う』は町村で最も高く、『ほとんど会わない』、『年に数回会う』の割合は大都市で最も高くなっている。

祖父母との居住形態別にみると、『ほとんど毎日会う』の割合は、同居で最も高く、『週に1回以上会う』、『月に1～2回会う』の割合は、近居で最も高く、『ほとんど会わない』、『年に数回会う』の割合は別居で最も高くなっている。

表1 祖父母との接触頻度（問4）

	総数	ほとんど毎日会う	週に1回以上会う	月に1～2回会う	年に数回会う	ほとんど会わない	なくなっている	無回答
総数（人）	2,940	976	253	558	719	286	79	69
構成比（％）	100.0	33.2	8.6	19.0	24.5	9.7	2.7	2.3
小学生	960	341	130	199	157	108	12	13
	100.0	35.5	13.5	20.7	16.4	11.3	1.3	1.4
中学生	954	322	65	198	260	57	23	29
	100.0	33.8	6.8	20.8	27.3	6.0	2.4	3.0
高校生	1,026	313	58	161	302	121	44	27
	100.0	30.5	5.7	15.7	29.4	11.8	4.3	2.6
性別								
男性	1,220	439	115	214	275	109	31	37
	100.0	36.0	9.4	17.5	22.5	8.9	2.5	3.0
小学生	472	160	66	88	83	61	7	7
	100.0	33.9	14.0	18.6	17.6	12.9	1.5	1.5
中学生	434	159	29	85	111	19	10	21
	100.0	36.6	6.7	19.6	25.6	4.4	2.3	4.8
高校生	314	120	20	41	81	29	14	9
	100.0	38.2	6.4	13.1	25.8	9.2	4.5	2.9
女性	1,718	536	138	344	444	176	48	32
	100.0	31.2	8.0	20.0	25.8	10.2	2.8	1.9
小学生	487	180	64	111	74	47	5	6
	100.0	37.0	13.1	22.8	15.2	9.7	1.0	1.2
中学生	520	163	36	113	149	38	13	8
	100.0	31.3	6.9	21.7	28.7	7.3	2.5	1.5
高校生	711	193	38	120	221	91	30	18
	100.0	27.1	5.3	16.9	31.1	12.8	4.2	2.5
無回答	2	1	-	-	-	1	-	-
	100.0	50.0	-	-	-	50.0	-	-
都市規模別								
大都市	667	133	48	123	217	106	27	13
	100.0	19.9	7.2	18.4	32.5	15.9	4.0	1.9
中都市	709	211	56	135	213	72	13	9
	100.0	29.8	7.9	19.0	30.0	10.2	1.8	1.3
小都市	404	142	41	87	88	34	4	8
	100.0	35.1	10.1	21.5	21.8	8.4	1.0	2.0
町村	1,160	490	108	213	201	74	35	39
	100.0	42.2	9.3	18.4	17.3	6.4	3.0	3.4
祖父母との居住形態別								
同居	1,205	859	47	99	134	39	-	27
	100.0	71.3	3.9	8.2	11.1	3.2	-	2.2
近居	494	103	123	161	77	27	-	3
	100.0	20.9	24.9	32.6	15.6	5.5	-	0.6
別居	1,144	14	82	297	507	218	-	26
	100.0	1.2	7.2	26.0	44.3	19.1	-	2.3
死亡	79	-	-	-	-	-	79	-
	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-
無回答	18	-	1	1	1	2	-	13
	100.0	-	5.6	5.6	5.6	11.2	-	72.2

2 祖父母との同居意向（問5）

祖父母との同居意向についてみると、『どちらでもよい』が45.9%と最も高く、次いで『暮らしたい』（32.5%）、『あまり暮らしたくない』（11.2%）、『暮らしたくない』（5.9%）などの順となっている。

小学生、中学生、高校生別にみると、小学生では『暮らしたい』、中学・高校生では『どちらでもよい』の割合が最も高く、次いで小学生では『どちらでもよい』、『あまり暮らしたくない』、中学・高校生では『暮らしたい』、『あまり暮らしたくない』などの順となっており、『どちらでもよい』、『あまり暮らしたくない』、『暮らしたくない』の割合は、高校生で最も高く、『暮らしたい』の割合は、小学生で最も高くなっている。

性別、小学生、中学生、高校生別にみると、『どちらでもよい』の割合は女性より男性が高く、男性では高校生で最も高く、『あまり暮らしたくない』の割合は男性より女性が高く、女性では高校生で最も高くなっている。

都市規模別にみると、『暮らしたい』の割合は、都市規模が大きいほど低くなっている。

祖父母との居住形態別にみると、『暮らしたい』の割合は同居で最も高く、『あまり暮らしたくない』の割合は別居で最も高くなっている。

祖父母との接触頻度別にみると、『暮らしたい』の割合は、「ほとんど毎日会う」が最も高く、『あまり暮らしたくない』、『暮らしたくない』の割合は、「ほとんど会わない」が最も高くなっている。

表2 祖父母との同居意向(問5)

	総数	暮らしたい	あまり暮らしたくない	暮らしたくない	どちらでもよい	なくなって いる	無回答
総数(人)	2,940	955	330	174	1,350	79	52
構成比(%)	100.0	32.5	11.2	5.9	45.9	2.7	1.8
小学生	960	459	63	19	392	12	15
	100.0	47.8	6.6	2.0	40.8	1.3	1.6
中学生	954	281	122	58	452	23	18
	100.0	29.5	12.8	6.1	47.4	2.4	1.9
高校生	1,026	215	145	97	506	44	19
	100.0	21.0	14.1	9.5	49.3	4.3	1.9
性別							
男性	1,220	389	115	65	594	31	26
	100.0	31.9	9.4	5.3	48.7	2.5	2.1
小学生	472	211	30	13	204	7	7
	100.0	44.7	6.4	2.8	43.2	1.5	1.5
中学生	434	119	53	29	212	10	11
	100.0	27.4	12.2	6.7	48.8	2.3	2.5
高校生	314	59	32	23	178	14	8
	100.0	18.8	10.2	7.3	56.7	4.5	2.5
女性	1,718	565	215	109	755	48	26
	100.0	32.9	12.5	6.3	43.9	2.8	1.5
小学生	487	247	33	6	188	5	8
	100.0	50.7	6.8	1.2	38.6	1.0	1.6
中学生	520	162	69	29	240	13	7
	100.0	31.2	13.3	5.6	46.2	2.5	1.3
高校生	711	156	113	74	327	30	11
	100.0	21.9	15.9	10.4	46.0	4.2	1.5
無回答	2	1	-	-	1	-	-
	100.0	50.0	-	-	50.0	-	-
都市規模別							
大都市	667	185	107	48	291	27	9
	100.0	27.7	16.0	7.2	43.6	4.0	1.3
中都市	709	218	83	46	341	13	8
	100.0	30.7	11.7	6.5	48.1	1.8	1.1
小都市	404	140	39	22	189	4	10
	100.0	34.7	9.7	5.4	46.8	1.0	2.5
町村	1,160	412	101	58	529	35	25
	100.0	35.5	8.7	5.0	45.6	3.0	2.2
祖父母との居住形態別							
同居	1,205	509	117	54	505	-	20
	100.0	42.2	9.7	4.5	41.9	-	1.7
近居	494	152	55	33	254	-	-
	100.0	30.8	11.1	6.7	51.4	-	-
別居	1,144	292	157	86	588	-	21
	100.0	25.5	13.7	7.5	51.4	-	1.8
死亡	79	-	-	-	-	79	-
	100.0	-	-	-	-	100.0	-
無回答	18	2	1	1	3	-	11
	100.0	11.1	5.6	5.6	16.7	-	61.1
祖父母との接触頻度							
ほとんど毎日 会う	976	447	90	42	384	-	13
	100.0	45.8	9.2	4.3	39.3	-	1.3
週に1回以上 会う	253	101	26	10	115	-	1
	100.0	39.9	10.3	4.0	45.5	-	0.4
月に1~2回 会う	558	168	69	29	292	-	-
	100.0	30.1	12.4	5.2	52.3	-	-
年に数回会う	719	167	100	54	396	-	2
	100.0	23.2	13.9	7.5	55.1	-	0.3
ほとんど会わ ない	286	60	43	37	144	-	2
	100.0	21.0	15.0	12.9	50.3	-	0.7
なくなってい る	79	-	-	-	-	79	-
	100.0	-	-	-	-	100.0	-
無回答	69	12	2	2	19	-	34
	100.0	17.4	2.9	2.9	27.5	-	49.3

3 高齢者の年齢イメージ（問6）

高齢者の年齢イメージについてみると、『60歳くらいから』が47.5%と最も高く、次いで『70歳くらいから』（33.8%）などの順となっている。

小学生、中学生、高校生別にみると、各々『60歳くらいから』の割合が最も高く、次いで『70歳くらいから』などの順となっており、『70歳くらいから』の割合は、高校生で最も高くなっている。

性別、小学生、中学生、高校生別にみると、『70歳くらいから』の割合は、女性の高校生で最も高くなっている。

祖父母との居住形態別にみると、別居で『60歳くらいから』の割合が最も低く、『70歳くらいから』の割合が最も高くなっている。

表3 高齢者の年齢イメージ（問6）

	総数	40歳くらいから	50歳くらいから	60歳くらいから	70歳くらいから	80歳くらいから	90歳くらいから	100歳くらいから	歳には関係がない	無回答
総数（人）	2,940	28	188	1,397	995	139	17	19	148	9
構成比（%）	100.0	1.0	6.4	47.5	33.8	4.7	0.6	0.6	5.0	0.3
小学生	960	8	84	448	290	65	9	9	44	3
	100.0	0.8	8.8	46.7	30.2	6.8	0.9	0.9	4.6	0.3
中学生	954	14	57	459	313	33	7	8	57	6
	100.0	1.5	6.0	48.1	32.8	3.5	0.7	0.8	6.0	0.6
高校生	1,026	6	47	490	392	41	1	2	47	-
	100.0	0.6	4.6	47.8	38.2	4.0	0.1	0.2	4.6	-
性別										
男性	1,220	15	96	583	374	55	10	12	67	8
	100.0	1.2	7.9	47.8	30.7	4.5	0.8	1.0	5.5	0.7
小学生	472	6	50	217	132	31	5	6	23	2
	100.0	1.3	10.6	46.0	28.0	6.6	1.1	1.3	4.9	0.4
中学生	434	7	24	202	146	10	4	5	30	6
	100.0	1.6	5.5	46.5	33.6	2.3	0.9	1.2	6.9	1.4
高校生	314	2	22	164	96	14	1	1	14	-
	100.0	0.6	7.0	52.2	30.6	4.5	0.3	0.3	4.5	-
女性	1,718	13	92	812	621	84	7	7	81	1
	100.0	0.8	5.4	47.3	36.1	4.9	0.4	0.4	4.7	0.1
小学生	487	2	34	230	158	34	4	3	21	1
	100.0	0.4	7.0	47.2	32.4	7.0	0.8	0.6	4.3	0.2
中学生	520	7	33	257	167	23	3	3	27	-
	100.0	1.3	6.3	49.4	32.1	4.4	0.6	0.6	5.2	-
高校生	711	4	25	325	296	27	-	1	33	-
	100.0	0.6	3.5	45.7	41.6	3.8	-	0.1	4.6	-
無回答	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-
	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
祖父母との居住形態別										
同居	1,205	14	88	596	384	50	6	5	60	2
	100.0	1.2	7.3	49.5	31.9	4.1	0.5	0.4	5.0	0.2
近居	494	3	37	251	145	27	5	6	20	-
	100.0	0.6	7.5	50.8	29.4	5.5	1.0	1.2	4.0	-
別居	1,144	9	59	513	425	60	6	8	63	1
	100.0	0.8	5.2	44.8	37.2	5.2	0.5	0.7	5.5	0.1
死亡	79	2	3	34	35	2	-	-	3	-
	100.0	2.5	3.8	43.0	44.3	2.5	-	-	3.8	-
無回答	18	-	1	3	6	-	-	-	2	6
	100.0	-	5.6	16.7	33.3	-	-	-	11.1	33.3

4 高齢期に大切なもの（問7：中学・高校生）

高齢期に大切なものについてみると、『健康』が87.1%と最も高く、次いで『家族』（69.0%）『趣味』（55.4%）『友人』（39.8%）『収入・財産』（28.7%）などの順となっている。

中学生、高校生別にみると、中学生では、『健康』が89.0%と最も高く、次いで『家族』（73.1%）『趣味』（48.1%）『友人』（37.6%）『収入・財産』（28.5%）などの順となっている。高校生では、『健康』が85.3%と最も高く、次いで『家族』（65.2%）『趣味』（62.1%）『友人』（41.8%）『収入・財産』（28.9%）などの順となっている。

性別にみると、男性では『収入・財産』の割合が女性より高く、女性では『家族』、『趣味』、『友人』の割合が男性より高くなっている。

都市規模別にみると、大都市では『家族』の割合が最も低く、『友人』の割合が最も高くなっている。

祖父母との同居意向別にみると、『家族』では「暮らしたい」が、『趣味』では「あまり暮らしたくない」が、『収入・財産』では「暮らしたくない」の割合が高くなっている。

表4 高齢期に大切なもの（問7：中学・高校生）

（3つまでの複数回答）

	総数	健康	家族	友人	収入・財産	趣味	仕事	その他	わからない	無回答	回答計
総数（人）	1,980	1,724	1,366	788	569	1,096	53	54	10	5	5,665
構成比（%）	100.0	87.1	69.0	39.8	28.7	55.4	2.7	2.7	0.5	0.3	286.1
中学生	954	849	697	359	272	459	31	35	7	3	2,712
	100.0	89.0	73.1	37.6	28.5	48.1	3.2	3.7	0.7	0.3	284.3
高校生	1,026	875	669	429	297	637	22	19	3	2	2,953
	100.0	85.3	65.2	41.8	28.9	62.1	2.1	1.9	0.3	0.2	287.8
性別											
男性	748	644	483	281	240	390	29	31	3	3	2,104
	100.0	86.1	64.6	37.6	32.1	52.1	3.9	4.1	0.4	0.4	281.3
女性	1,231	1,080	883	507	328	705	24	22	7	2	3,558
	100.0	87.7	71.7	41.2	26.6	57.3	1.9	1.8	0.6	0.2	289.0
都市規模別											
大都市	517	446	326	237	146	294	19	11	3	1	1,483
	100.0	86.3	63.1	45.8	28.2	56.9	3.7	2.1	0.6	0.2	286.8
中都市	388	338	271	149	113	235	7	8	1	-	1,122
	100.0	87.1	69.8	38.4	29.1	60.6	1.8	2.1	0.3	-	289.2
小都市	275	243	195	110	73	146	5	9	2	1	784
	100.0	88.4	70.9	40.0	26.5	53.1	1.8	3.3	0.7	0.4	285.1
町村	800	697	574	292	237	421	22	26	4	3	2,276
	100.0	87.1	71.8	36.5	29.6	52.6	2.8	3.3	0.5	0.4	284.5
祖父母との同居意向別											
暮らしたい	496	445	390	210	95	268	12	10	-	1	1,431
	100.0	89.7	78.6	42.3	19.2	54.0	2.4	2.0	-	0.2	288.5
あまり暮らしたくない	267	232	157	107	87	164	8	3	3	-	761
	100.0	86.9	58.8	40.1	32.6	61.4	3.0	1.1	1.1	-	285.0
暮らしたくない	155	125	86	59	69	72	11	12	2	-	436
	100.0	80.6	55.5	38.1	44.5	46.5	7.1	7.7	1.3	-	281.3
どちらでもよい	958	834	661	381	286	531	19	25	4	3	2,744
	100.0	87.1	69.0	39.8	29.9	55.4	2.0	2.6	0.4	0.3	286.4
なくなっている	67	55	47	20	19	40	2	3	1	-	187
	100.0	82.1	70.1	29.9	28.4	59.7	3.0	4.5	1.5	-	279.1
無回答	37	33	25	11	13	21	1	1	-	1	106
	100.0	89.2	67.6	29.7	35.1	56.8	2.7	2.7	-	2.7	286.5

5 高齢者との交流経験（問7：小学生、問8：中学・高校生）

高齢者との交流の経験についてみると、『電車やバスで、お年寄りに席をゆずったり、街でお年寄りの手を引いたり、荷物をもってあげたことがある』が47.8%と最も高く、次いで『老人ホームに行ったり、学校にお年寄りに来てもらったりしたことがある』（45.1%）、『その他にも、お年寄りと一緒にしたことがある』（36.6%）、『身体の不自由な祖父母の世話をしたことがある』（19.8%）、『したことがない』（16.9%）の順となっている。

小学生、中学生、高校生別にみると、小学生では『その他にも、お年寄りと一緒にしたことがある』の割合が最も高く、次いで『老人ホームに行ったり、学校にお年寄りに来てもらったりしたことがある』などの順であり、中学・高校生では『電車やバスで、お年寄りに席をゆずったり、街でお年寄りの手を引いたり、荷物をもってあげたことがある』の割合が最も高く、次いで『老人ホームに行ったり、学校にお年寄りに来てもらったりしたことがある』などの順となっており、高校生の割合が高くなっているのは、『電車やバスで、お年寄りに席をゆずったり、街でお年寄りの手を引いたり、荷物をもってあげたことがある』、『老人ホームに行ったり、学校にお年寄りに来てもらったりしたことがある』、『身体の不自由な祖父母の世話をしたことがある』であり、小学生の割合が高くなっているのは、『その他にも、お年寄りと一緒にしたことがある』である。

性別にみると、男性では『したことがない』の割合が女性より高く、それ以外のすべての項目の割合は、女性が男性より高くなっている。

都市規模別にみると、『電車やバスで、お年寄りに席をゆずったり、街でお年寄りの手を引いたり、荷物をもってあげたことがある』の割合は、都市規模が大きいほど高く、『老人ホームに行ったり、学校にお年寄りに来てもらったりしたことがある』の割合は、都市規模が小さいほど高くなっている。また、『したことがない』の割合は、大都市で低くなっている。

祖父母との同居意向別にみると、『したことがない』では「暮らしたくない」の割合が最も高く、一方「暮らしたい」では、『老人ホームに行ったり、学校にお年寄りに来てもらったりしたことがある』、『身体の不自由な祖父母の世話をしたことがある』、『その他にも、お年寄りと一緒にしたことがある』の割合が高くなっている。

表5 高齢者との交流経験（問7：小学生、問8：中学・高校生）

（複数回答）

	総数	電車やバスで、お年寄りに席をゆずったり、街でお年寄りの手を引いたり、荷物をもってあげたことがある	身体の不自由な祖父母の世話をしたことがある	老人ホームに行った り、学校にお年寄りに来てもらったりしたことがある	その他にも、お年寄りと一緒にしたことがある	したことがない	無回答	回答計
総数（人）	2,940	1,405	582	1,326	1,077	498	12	4,900
構成比（％）	100.0	47.8	19.8	45.1	36.6	16.9	0.4	166.7
小学生	960	361	191	433	499	160	5	1,649
	100.0	37.6	19.9	45.1	52.0	16.7	0.5	171.8
中学生	954	492	177	359	357	175	4	1,564
	100.0	51.6	18.6	37.6	37.4	18.3	0.4	163.9
高校生	1,026	552	214	534	221	163	3	1,687
	100.0	53.8	20.9	52.0	21.5	15.9	0.3	164.4
性別								
男性	1,220	490	207	438	410	307	5	1,857
	100.0	40.2	17.0	35.9	33.6	25.2	0.4	152.2
女性	1,718	915	375	887	667	190	7	3,041
	100.0	53.3	21.8	51.6	38.8	11.1	0.4	177.0
無回答	2	-	-	1	-	1	-	2
	100.0	-	-	50.0	-	50.0	-	100.0
都市規模別								
大都市	667	474	131	269	224	81	2	1,181
	100.0	71.1	19.6	40.3	33.6	12.1	0.3	177.1
中都市	709	331	131	313	249	126	3	1,153
	100.0	46.7	18.5	44.1	35.1	17.8	0.4	162.6
小都市	404	165	78	187	164	73	-	667
	100.0	40.8	19.3	46.3	40.6	18.1	-	165.1
町村	1,160	435	242	557	440	218	7	1,899
	100.0	37.5	20.9	48.0	37.9	18.8	0.6	163.7
祖父母との同居意向別								
暮らしたい	955	462	233	466	431	118	5	1,715
	100.0	48.4	24.4	48.8	45.1	12.4	0.5	179.6
あまり暮らしたくない	330	182	65	150	100	55	-	552
	100.0	55.2	19.7	45.5	30.3	16.7	-	167.3
暮らしたくない	174	73	20	63	40	50	1	247
	100.0	42.0	11.5	36.2	23.0	28.7	0.6	142.0
どちらでもよい	1,350	632	240	594	473	249	2	2,190
	100.0	46.8	17.8	44.0	35.0	18.4	0.1	162.2
なくなっている	79	39	14	33	23	14	1	124
	100.0	49.4	17.7	41.8	29.1	17.7	1.3	157.0
無回答	52	17	10	20	10	12	3	72
	100.0	32.7	19.2	38.5	19.2	23.1	5.8	138.5

6 高齢者との交流経験による意識の変化（問8：小学生、問9：中学・高校生）

高齢者との交流経験による意識の変化をみると、『お年寄りのことが前に比べてよくわかるようになった』が43.9%と最も高く、次いで『お年寄りと一緒に何かをしたり、してあげることが楽しくなった』（28.7%）、『お年寄りについての気持ちは、前と変わらない』（23.1%）、『したことがない』（16.9%）、『お年寄りはかわいそうなので、歳をとりたくないと思うようになった』（11.0%）、『お年寄りとは、話が合わないし、一緒にいるのは好きではない』（4.1%）の順となっている。

小学生、中学生、高校生別にみると、『お年寄りのことが前に比べてよくわかるようになった』の割合が各々最も高く、次いで小学生では『お年寄りと一緒に何かをしたり、してあげることが楽しくなった』、『お年寄りについての気持ちは、前と変わらない』、中学・高校生では『お年寄りについての気持ちは、前と変わらない』、『お年寄りと一緒に何かをしたり、してあげることが楽しくなった』などの順となっており、小学生の割合が高くなっているのは、『お年寄りのことが前に比べてよくわかるようになった』、『お年寄りと一緒に何かをしたり、してあげることが楽しくなった』、『お年寄りはかわいそうなので、歳をとりたくないと思うようになった』であり、高校生の割合が高くなっているのは、『お年寄りについての気持ちは、前と変わらない』である。

性別にみると、男性が女性より割合が高いのは、『したことがない』、『お年寄りについての気持ちは、前と変わらない』、『お年寄りはかわいそうなので、歳をとりたくないと思うようになった』であり、一方、女性が男性より割合が高いのは、『お年寄りのことが前に比べてよくわかるようになった』、『お年寄りと一緒に何かをしたり、してあげることが楽しくなった』となっている。

祖父母との同居意向別にみると、「暮らしたい」の割合が高くなっているのは、『お年寄りのことが前に比べてよくわかるようになった』、『お年寄りと一緒に何かをしたり、してあげることが楽しくなった』である。

表6 高齢者との交流経験による意識の変化(問8:小学生、問9:中学・高校生)

(複数回答)

	総数	お年寄りのことが前に比べてよくわかるようになった	お年寄りと一緒に何かをしたり、してあげることが楽しくなった	お年寄りについての気持ちは、前と変わらない	お年寄りはかわいそうなので、歳をとりたくないと思うようになった	お年寄りとは、話が合わないし、一緒にいるのは好きではない	したことがない	無回答	回答計
総数(人)	2,940	1,290	844	678	323	122	498	30	3,785
構成比(%)	100.0	43.9	28.7	23.1	11.0	4.1	16.9	1.0	128.7
小学生	960	468	362	169	142	37	160	9	1,347
	100.0	48.8	37.7	17.6	14.8	3.9	16.7	0.9	140.3
中学生	954	398	225	236	97	50	175	6	1,187
	100.0	41.7	23.6	24.7	10.2	5.2	18.3	0.6	124.4
高校生	1,026	424	257	273	84	35	163	15	1,251
	100.0	41.3	25.0	26.6	8.2	3.4	15.9	1.5	121.9
性別									
男性	1,220	454	240	299	160	51	307	10	1,521
	100.0	37.2	19.7	24.5	13.1	4.2	25.2	0.8	124.7
女性	1,718	835	604	379	163	71	190	20	2,262
	100.0	48.6	35.2	22.1	9.5	4.1	11.1	1.2	131.7
無回答	2	1	-	-	-	-	1	-	2
	100.0	50.0	-	-	-	-	50.0	-	100.0
祖父母との同居意向別									
暮らしたい	955	521	424	139	100	9	118	7	1,318
	100.0	54.6	44.4	14.6	10.5	0.9	12.4	0.7	138.0
あまり暮らしたくない	330	119	62	97	52	37	55	2	424
	100.0	36.1	18.8	29.4	15.8	11.2	16.7	0.6	128.5
暮らしたくない	174	48	11	47	23	24	50	2	205
	100.0	27.6	6.3	27.0	13.2	13.8	28.7	1.1	117.8
どちらでもよい	1,350	547	310	367	137	50	249	13	1,673
	100.0	40.5	23.0	27.2	10.1	3.7	18.4	1.0	123.9
なくなっている	79	32	27	21	4	-	14	2	100
	100.0	40.5	34.2	26.6	5.1	-	17.7	2.5	126.6
無回答	52	23	10	7	7	2	12	4	65
	100.0	44.2	19.2	13.5	13.5	3.8	23.1	7.7	125.0

7 高齢者との交流への参加意識（問9：小学生、問10：中学・高校生）

高齢者との交流への参加意識をみると、『できる限り参加したい』が57.9%と最も高く、次いで『あまり参加したくない』（26.5%）、『積極的に参加したい』（10.8%）、『全く参加したくない』（3.9%）の順となっており、『積極的に参加したい』と『できる限り参加したい』の計『参加意向あり』の割合は68.7%となっている。

小学生、中学生、高校生別にみると、『できる限り参加したい』の割合が各々最も高く、次いで小学生では『積極的に参加したい』、中学・高校生では『あまり参加したくない』などの順となっており、『参加意向あり』の割合は、小学生で高くなっている。

性別にみると、女性で『参加意向あり』の割合が男性より高くなっている。

祖父母との同居意向別にみると、『参加意向あり』では、「暮らしたい」の割合が最も高く、『参加意向なし』では、「暮らしたくない」の割合が最も高くなっている。

表7 高齢者との交流への参加意識（問9：小学生、問10：中学・高校生）

	総数	参加意向あり			参加意向なし			無回答
		(計)	積極的に参加したい	できる限り参加したい	(計)	あまり参加したくない	全く参加したくない	
総数(人)	2,940	2,020	318	1,702	892	778	114	28
構成比(%)	100.0	68.7	10.8	57.9	30.3	26.5	3.9	1.0
小学生	960	784	134	650	159	131	28	17
	100.0	81.7	14.0	67.7	16.6	13.6	2.9	1.8
中学生	954	600	96	504	346	303	43	8
	100.0	62.9	10.1	52.8	36.3	31.8	4.5	0.8
高校生	1,026	636	88	548	387	344	43	3
	100.0	62.0	8.6	53.4	37.7	33.5	4.2	0.3
性別								
男性	1,220	727	110	617	479	394	85	14
	100.0	59.6	9.0	50.6	39.3	32.3	7.0	1.1
小学生	472	356	57	299	105	85	20	11
	100.0	75.4	12.1	63.3	22.2	18.0	4.2	2.3
中学生	434	241	43	198	190	157	33	3
	100.0	55.5	9.9	45.6	43.8	36.2	7.6	0.7
高校生	314	130	10	120	184	152	32	-
	100.0	41.4	3.2	38.2	58.6	48.4	10.2	-
女性	1,718	1,292	208	1,084	412	383	29	14
	100.0	75.2	12.1	63.1	24.0	22.3	1.7	0.8
小学生	487	427	77	350	54	46	8	6
	100.0	87.7	15.8	71.9	11.1	9.4	1.6	1.2
中学生	520	359	53	306	156	146	10	5
	100.0	69.0	10.2	58.8	30.0	28.1	1.9	1.0
高校生	711	506	78	428	202	191	11	3
	100.0	71.2	11.0	60.2	28.4	26.9	1.5	0.4
無回答	2	1	-	1	1	1	-	-
	100.0	50.0	-	50.0	50.0	50.0	-	-
祖父母との同居意向別								
暮らしたい	955	825	194	631	120	111	9	10
	100.0	86.4	20.3	66.1	12.6	11.6	0.9	1.0
あまり暮らしたくない	330	170	17	153	158	136	22	2
	100.0	51.5	5.2	46.4	47.9	41.2	6.7	0.6
暮らしたくない	174	61	7	54	112	79	33	1
	100.0	35.1	4.0	31.0	64.4	45.4	19.0	0.6
どちらでもよい	1,350	871	84	787	465	421	44	14
	100.0	64.5	6.2	58.3	34.4	31.2	3.3	1.0
なくなっている	79	55	10	45	24	20	4	-
	100.0	69.6	12.7	57.0	30.4	25.3	5.1	-
無回答	52	38	6	32	13	11	2	1
	100.0	73.1	11.5	61.5	25.0	21.2	3.8	1.9

8 参加したい高齢者との交流の内容（問10 - 2：中学・高校生）

高齢者との交流へ『積極的に参加したい』、『できる限り参加したい』と回答した生徒の、参加したい高齢者との交流の内容をみると、『お年寄りと一緒に楽しめる活動をする』が70.8%と最も高く、次いで『地域の伝統・文化をお年寄りに教えてもらう』（38.5%）、『お年寄りの特技を習う』（37.9%）などの順となっている。

中学生、高校生別にみると、『お年寄りと一緒に楽しめる活動をする』の割合が各々最も高く、次いで『地域の伝統・文化をお年寄りに教えてもらう』（高校生では『お年寄りの特技を習う』が同じ割合）などの順となっており、『お年寄りと一緒に楽しめる活動をする』では、高校生が中学生より割合が高く、『お年寄りの特技を習う』、『地域の伝統・文化をお年寄りに教えてもらう』、『自分のできることをお年寄りに教える』では、中学生が高校生より割合が高くなっている。

性別にみると、男性が女性より割合が高いのは、『地域の伝統・文化をお年寄りに教えてもらう』、『お年寄りの特技を習う』、『自分のできることをお年寄りに教える』であり、一方、女性が男性より割合が高いのは『お年寄りと一緒に楽しめる活動をする』となっている。

表8 参加したい高齢者との交流の内容（問10 - 2：中学・高校生）（複数回答）

	総数	お年寄りの特技を習う	地域の伝統・文化をお年寄りに教えてもらう	自分のできることをお年寄りに教える	お年寄りと一緒に楽しめる活動をする	その他	無回答	回答計
総数（人）	1,236	469	476	210	875	76	7	2,113
構成比（%）	100.0	37.9	38.5	17.0	70.8	6.1	0.6	171.0
中学生	600	241	248	121	417	39	3	1,069
	100.0	40.2	41.3	20.2	69.5	6.5	0.5	178.2
高校生	636	228	228	89	458	37	4	1,044
	100.0	35.8	35.8	14.0	72.0	5.8	0.6	164.2
性別								
男性	371	151	146	72	212	35	4	620
	100.0	40.7	39.4	19.4	57.1	9.4	1.1	167.1
女性	865	318	330	138	663	41	3	1,493
	100.0	36.8	38.2	16.0	76.6	4.7	0.3	172.6

9 高齢者との交流の阻害要因（問10-3：中学・高校生）

高齢者との交流へ『あまり参加したくない』、『全く参加したくない』と回答した生徒の、参加したくない理由をみると、『勉強や部活動、遊び等が忙しく、暇がないから』が37.2%と最も高く、次いで『お年寄りとは話が合わないと思うから』（37.0%）、『お年寄りとは活動のペースが合わないと思うから』（31.7%）、『お年寄りとは趣味の対象が違うと思うから』（26.3%）、『お年寄りに気を使うのはわずらわしいから』（21.8%）などの順となっている。

中学生、高校生別にみると、中学生では、『お年寄りとは話が合わないと思うから』が43.1%と最も高く、次いで『お年寄りとは活動のペースが合わないと思うから』（38.4%）、『勉強や部活動、遊び等が忙しく、暇がないから』（37.9%）、『お年寄りとは趣味の対象が違うと思うから』（34.1%）などの順となっている。高校生では、『勉強や部活動、遊び等が忙しく、暇がないから』が36.7%と最も高く、次いで『お年寄りとは話が合わないと思うから』（31.5%）、『お年寄りとは活動のペースが合わないと思うから』（25.6%）、『お年寄りに気を使うのはわずらわしいから』（23.5%）などの順となっている。

性別にみると、男性が女性より割合が高いのは、『お年寄りとは話が合わないと思うから』、『お年寄りとは活動のペースが合わないと思うから』、『お年寄りとは趣味の対象が違うと思うから』となっている。

都市規模別にみると、『勉強や部活動、遊び等が忙しく、暇がないから』の割合は、大都市で最も高くなっている。

表9 高齢者との交流の阻害要因（問10-3：中学・高校生）

（複数回答）

	総数	勉強や部活動、遊び等が忙しく、暇がないから	お年寄りとは活動のペースが合わないと思うから	お年寄りとは話が合わないと思うから	お年寄りに気を使うのはわずらわしいから	お年寄りとは趣味の対象が違うと思うから	その他	特に理由はない	無回答	回答計
総数（人）	733	273	232	271	160	193	93	127	1	1,350
構成比（%）	100.0	37.2	31.7	37.0	21.8	26.3	12.7	17.3	0.1	184.2
中学生	346	131	133	149	69	118	45	54	1	700
	100.0	37.9	38.4	43.1	19.9	34.1	13.0	15.6	0.3	202.3
高校生	387	142	99	122	91	75	48	73	-	650
	100.0	36.7	25.6	31.5	23.5	19.4	12.4	18.9	-	168.0
性別										
男性	374	138	133	155	84	109	45	65	1	730
	100.0	36.9	35.6	41.4	22.5	29.1	12.0	17.4	0.3	195.2
女性	358	135	99	116	76	84	48	61	-	619
	100.0	37.7	27.7	32.4	21.2	23.5	13.4	17.0	-	172.9
無回答	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-	100.0
都市規模別										
大都市	178	83	59	62	41	53	27	22	1	348
	100.0	46.6	33.1	34.8	23.0	29.8	15.2	12.4	0.6	195.5
中都市	143	49	46	55	43	28	17	27	-	265
	100.0	34.3	32.2	38.5	30.1	19.6	11.9	18.9	-	185.3
小都市	87	25	31	37	16	27	9	18	-	163
	100.0	28.7	35.6	42.5	18.4	31.0	10.3	20.7	-	187.4
町村	325	116	96	117	60	85	40	60	-	574
	100.0	35.7	29.5	36.0	18.5	26.2	12.3	18.5	-	176.6

10 高齢者との交流を促進するための必要条件（問11：中学・高校生）

高齢者との交流を促進するための必要条件をみると、『交流の機会を作る』が67.4%と最も高く、次いで『お年寄りが参加しやすくするために、お年寄りに配慮した交通機関の整備』（47.0%）『若い世代からの働きかけ』と『若い世代のゆとりの拡大』（各28.9%）『若い世代とお年寄りとの交流が重要なことを広く知らせ、気づかせる』（25.8%）『学校や老人ホームなどを一緒に建てたり、外の人に開放する』（16.1%）『若い世代とお年寄りとの交流のリーダーがいること』（10.1%）などの順となっている。

中学生、高校生別にみると、中学生では、『交流の機会をつくる』が66.1%と最も高く、次いで『お年寄りが参加しやすくするために、お年寄りに配慮した交通機関の整備』（46.9%）『若い世代とお年寄りとの交流が重要なことを広く知らせ、気づかせる』（29.0%）『若い世代のゆとりの拡大』（28.7%）『若い世代からの働きかけ』（25.7%）『学校や老人ホームなどを一緒に建てたり、外の人に開放する』（14.5%）『若い世代とお年寄りとの交流のリーダーがいること』（11.0%）などの順となっている。高校生では、『交流の機会をつくる』が68.5%と最も多く、次いで『お年寄りが参加しやすくするために、お年寄りに配慮した交通機関の整備』（47.1%）『若い世代からの働きかけ』（32.0%）『若い世代のゆとりの拡大』（29.0%）『若い世代とお年寄りとの交流が重要なことを広く知らせ、気づかせる』（22.7%）『学校や老人ホームなどを一緒に建てたり、外の人に開放する』（17.6%）『若い世代とお年寄りとの交流のリーダーがいること』（9.2%）などの順となっている。

性別にみると、男性では『若い世代とお年寄りとの交流のリーダーがいること』の割合が女性より高く、それ以外のすべての項目の割合は、女性が男性より高くなっている。

表10 高齢者との交流を促進するための必要条件（問11：中学・高校生）

（複数回答）

	総数	若い世代とお年寄りとの交流が重要であることを広く知らせ、気づかせる	交流の機会を作る	学校や老人ホームなどを一緒に建てたり、外の人に開放する	お年寄りが参加しやすくするために、お年寄りに配慮した交通機関の整備	若い世代とお年寄りとの交流のリーダーがいること	若い世代からの働きかけ	若い世代のゆとりの拡大	その他	わからない	無回答	回答計
総数（人）	1,980	510	1,334	319	930	199	573	572	80	200	19	4,736
構成比（%）	100.0	25.8	67.4	16.1	47.0	10.1	28.9	28.9	4.0	10.1	1.0	239.2
中学生	954	277	631	138	447	105	245	274	50	98	14	2,279
	100.0	29.0	66.1	14.5	46.9	11.0	25.7	28.7	5.2	10.3	1.5	238.9
高校生	1,026	233	703	181	483	94	328	298	30	102	5	2,457
	100.0	22.7	68.5	17.6	47.1	9.2	32.0	29.0	2.9	9.9	0.5	239.5
性別												
男性	748	188	423	109	285	87	177	204	37	124	14	1,648
	100.0	25.1	56.6	14.6	38.1	11.6	23.7	27.3	4.9	16.6	1.9	220.3
女性	1,231	322	911	210	645	112	396	368	43	75	5	3,087
	100.0	26.2	74.0	17.1	52.4	9.1	32.2	29.9	3.5	6.1	0.4	250.8
無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	100.0

1.1 ボランティア活動の社会的評価についての意識（問12：中学・高校生）

ボランティア活動をしている（していた）人を表彰したり、入学試験時などに評価することについての意識をみると、『大変良い』が47.8%と最も高く、次いで『簡単な表彰くらいでよい』（20.6%）、『評価しなくて良い』と『わからない』（各14.2%）などの順となっている。

中学生、高校生別にみると、中学生では、『大変良い』が50.9%と最も高く、次いで『簡単な表彰くらいでよい』（21.8%）、『わからない』（13.4%）、『評価しなくて良い』（10.8%）などの順となっている。高校生では、『大変良い』が44.8%と最も高く、次いで『簡単な表彰くらいでよい』（19.4%）、『評価しなくて良い』（17.4%）、『わからない』（15.0%）などの順となっている。

性別にみると、男性が女性より割合が高いのは、『大変良い』であり、一方、女性が男性より割合が高いのは、『簡単な表彰くらいでよい』、『わからない』、『評価しなくて良い』となっている。

祖父母との居住形態別にみると、『大変良い』の割合は、別居で最も低くなっている。

祖父母との同居意向別にみると、『大変良い』では「暮らしたい」が、『簡単な表彰くらいでよい』では「あまり暮らしたくない」が、『評価しなくて良い』では「暮らしたくない」の割合が最も高くなっている。

表 1 1 ボランティア活動の社会的評価についての意識(問 1 2: 中学・高校生)

	総数	大変良い	簡単な表 彰くらい でよい	評価しな くて良い	その他	わからな い	無回答
総数(人)	1,980	946	407	282	39	282	24
構成比(%)	100.0	47.8	20.6	14.2	2.0	14.2	1.2
中学生	954	486	208	103	12	128	17
	100.0	50.9	21.8	10.8	1.3	13.4	1.8
高校生	1,026	460	199	179	27	154	7
	100.0	44.8	19.4	17.4	2.6	15.0	0.7
性別							
男性	748	375	149	95	13	100	16
	100.0	50.1	19.9	12.7	1.7	13.4	2.1
女性	1,231	571	258	187	26	181	8
	100.0	46.4	21.0	15.2	2.1	14.7	0.6
無回答	1	-	-	-	-	1	-
	100.0	-	-	-	-	100.0	-
祖父母との居住形態別							
同居	850	429	159	117	14	120	11
	100.0	50.5	18.7	13.8	1.6	14.1	1.3
近居	243	123	49	28	4	36	3
	100.0	50.6	20.2	11.5	1.6	14.8	1.2
別居	806	354	181	128	20	113	10
	100.0	43.9	22.5	15.9	2.5	14.0	1.2
死亡	67	32	15	8	1	11	-
	100.0	47.8	22.4	11.9	1.5	16.4	-
無回答	14	8	3	1	-	2	-
	100.0	57.1	21.4	7.1	-	14.3	-
祖父母との同居意向別							
暮らしたい	496	291	80	60	5	56	4
	100.0	58.7	16.1	12.1	1.0	11.3	0.8
あまり暮らしたくない	267	112	69	43	6	35	2
	100.0	41.9	25.8	16.1	2.2	13.1	0.7
暮らしたくない	155	55	28	39	9	24	-
	100.0	35.5	18.1	25.2	5.8	15.5	-
どちらでもよい	958	438	208	128	18	148	18
	100.0	45.7	21.7	13.4	1.9	15.4	1.9
なくなっている	67	32	15	8	1	11	-
	100.0	47.8	22.4	11.9	1.5	16.4	-
無回答	37	18	7	4	-	8	-
	100.0	48.6	18.9	10.8	-	21.6	-

1 2 家族の介護方法に関する意識（問10：小学生、問13：中学・高校生）

もし、祖父母が身体が不自由になった場合の、介護の方法に関する意識をみると、『祖父母の世話は、家で家族がするのが良い』が49.5%と最も高く、次いで『家で、福祉サービスをする人たちなどと家族が、一緒に祖父母の世話をするのが良い』（37.0%）、『身体が不自由なお年寄りの世話は、世話をする人がいる老人ホームなどで世話をしてもらうのが良い』（12.0%）などの順となっている。

小学生、中学生、高校生別にみると、小学生、中学生では『祖父母の世話は、家で家族がするのが良い』、高校生では『家で、福祉サービスをする人たちなどと家族が、一緒に祖父母の世話をするのが良い』の割合が最も高くなっており、『祖父母の世話は、家で家族がするのが良い』の割合は、小学生で最も高く、『家で、福祉サービスをする人たちなどと家族が、一緒に祖父母の世話をするのが良い』の割合は、高校生で最も高く、『身体が不自由なお年寄りの世話は、世話をする人がいる老人ホームなどで世話をしてもらうのが良い』の割合は、小学生で最も低くなっている。

性別にみると、男性が女性より割合が高いのは、『祖父母の世話は、家で家族がするのが良い』、『身体が不自由なお年寄りの世話は、世話をする人がいる老人ホームなどで世話をしてもらうのが良い』であり、一方、女性が男性より割合が高いのは、『家で、福祉サービスをする人たちなどと家族が、一緒に祖父母の世話をするのが良い』となっている。

性別、小学生、中学生、高校生別にみると、『祖父母の世話は、家で家族がするのが良い』の割合は、小学生の女性が最も高く、『家で、福祉サービスをする人たちなどと家族が、一緒に祖父母の世話をするのが良い』の割合は、高校生の女性が最も高くなっている。また、『身体が不自由なお年寄りの世話は、世話をする人がいる老人ホームなどで世話をしてもらうのが良い』の割合は、高校生の男性で最も高くなっている。

祖父母との居住形態別にみると、『祖父母の世話は、家で家族がするのが良い』では、「近居」の割合が最も高くなっている。

祖父母との同居意向別にみると、『祖父母の世話は、家で家族がするのが良い』の割合は、「暮らしたい」で最も高く、『身体が不自由なお年寄りの世話は、世話をする人がいる老人ホームなどで世話をしてもらうのが良い』の割合は、「暮らしたくない」で最も高くなっている。

表12 家族の介護方法に関する意識（問10：小学生、問13：中学・高校生）

	総数	祖父母の世話は、家で家族がするのが良い	家で、福祉サービスをする人たちなどと家族が、一緒に祖父母の世話をするのが良い	身体が不自由なお年寄りの世話は、世話をしている人がいる老人ホームなどで世話をしてもらうのが良い	無回答
総数（人）	2,940	1,456	1,089	354	41
構成比（％）	100.0	49.5	37.0	12.0	1.4
小学生	960	649	204	91	16
	100.0	67.6	21.3	9.5	1.7
中学生	954	433	377	128	16
	100.0	45.4	39.5	13.4	1.7
高校生	1,026	374	508	135	9
	100.0	36.5	49.5	13.2	0.9
性別					
男性	1,220	639	369	187	25
	100.0	52.4	30.2	15.3	2.0
小学生	472	294	112	55	11
	100.0	62.3	23.7	11.7	2.3
中学生	434	199	153	72	10
	100.0	45.9	35.3	16.6	2.3
高校生	314	146	104	60	4
	100.0	46.5	33.1	19.1	1.3
女性	1,718	817	718	167	16
	100.0	47.6	41.8	9.7	0.9
小学生	487	355	91	36	5
	100.0	72.9	18.7	7.4	1.0
中学生	520	234	224	56	6
	100.0	45.0	43.1	10.8	1.2
高校生	711	228	403	75	5
	100.0	32.1	56.7	10.5	0.7
無回答	2	-	2	-	-
	100.0	-	100.0	-	-
祖父母との居住形態別					
同居	1,205	607	428	153	17
	100.0	50.4	35.5	12.7	1.4
近居	494	279	152	53	10
	100.0	56.5	30.8	10.7	2.0
別居	1,144	537	460	136	11
	100.0	46.9	40.2	11.9	1.0
死亡	79	24	43	10	2
	100.0	30.4	54.4	12.7	2.5
無回答	18	9	6	2	1
	100.0	50.0	33.3	11.1	5.6
祖父母との同居意向別					
暮らしたい	955	626	278	42	9
	100.0	65.5	29.1	4.4	0.9
あまり暮らしたくない	330	106	137	82	5
	100.0	32.1	41.5	24.8	1.5
暮らしたくない	174	51	58	63	2
	100.0	29.3	33.3	36.2	1.1
どちらでもよい	1,350	623	558	149	20
	100.0	46.1	41.3	11.0	1.5
なくなっている	79	24	43	10	2
	100.0	30.4	54.4	12.7	2.5
無回答	52	26	15	8	3
	100.0	50.0	28.8	15.4	5.8

1 3 高齢社会に関する見聴き（問 1 1：小学生、問 1 4：中学・高校生）

高齢社会に関して、どの程度見聴きしているかをみると、『テレビ・ラジオで見たり、聴いたりしたことがある』が70.2%で最も高く、次いで『学校の先生から話を聞いたことがある』（47.1%）、『新聞、雑誌、書籍等で読んだことがある』（39.8%）、『両親等の家族から話を聞いたことがある』（27.9%）、『見聴きしたことはない』（11.1%）、『友人等から話を聞いたことがある』（5.3%）、『インターネット等で見たことがある』（1.9%）の順となっている。

小学生、中学生、高校生別にみると、小学生で割合が高くなっているのは、『両親等の家族から話を聞いたことがある』、『見聴きしたことはない』であり、高校生で割合が高くなっているのは、『テレビ・ラジオで見たり、聴いたりしたことがある』、『学校の先生から話を聞いたことがある』、『新聞、雑誌、書籍等で読んだことがある』である。

性別にみると、男性が女性より割合が高いのは、『見聴きしたことはない』となっており、一方、女性が男性より割合が高いのは、『テレビ・ラジオで見たり、聴いたりしたことがある』、『学校の先生から話を聞いたことがある』、『新聞、雑誌、書籍等で読んだことがある』、『両親等の家族から話を聞いたことがある』、『友人等から話を聞いたことがある』である。

表 1 3 高齢社会に関する見聴き（問 1 1：小学生、問 1 4：中学・高校生）

（複数回答）

	総数	両親等の家族から話を聞いたことがある	学校の先生から話を聞いたことがある	友人等から話を聞いたことがある	テレビ・ラジオで見たり、聴いたりしたことがある	新聞、雑誌、書籍等で読んだことがある	インターネット等で見たことがある	見聴きしたことはない	無回答	回答計
総数（人）	2,940	820	1,386	157	2,063	1,170	56	325	31	6,008
構成比（%）	100.0	27.9	47.1	5.3	70.2	39.8	1.9	11.1	1.1	204.4
小学生	960	342	254	64	554	280	27	210	12	1,743
	100.0	35.6	26.5	6.7	57.7	29.2	2.8	21.9	1.3	181.6
中学生	954	257	386	35	718	378	18	86	13	1,891
	100.0	26.9	40.5	3.7	75.3	39.6	1.9	9.0	1.4	198.2
高校生	1,026	221	746	58	791	512	11	29	6	2,374
	100.0	21.5	72.7	5.7	77.1	49.9	1.1	2.8	0.6	231.4
性別										
男性	1,220	320	452	52	796	417	27	197	22	2,283
	100.0	26.2	37.0	4.3	65.2	34.2	2.2	16.1	1.8	187.1
女性	1,718	500	934	105	1,267	753	29	126	9	3,723
	100.0	29.1	54.4	6.1	73.7	43.8	1.7	7.3	0.5	216.7
無回答	2	-	-	-	-	-	-	2	-	2
	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-	100.0

1 4 高齢社会の具体的なイメージ（問15：中学・高校生）

高齢社会についての具体的なイメージとして、『経済的に豊かで、社会が活力に満ちている』、『お年寄りの雇用・就労の場が確保されるようになる』、『公的年金制度の充実が図られる』、『生涯にわたる健康づくりが推進される』、『保健・医療・福祉サービスが充実される』、『お年寄りの学習・社会参加が促進される』、『安心できる、ゆとりのある住居が確保される』の7つの項目について、「そう思う」と回答した割合をみると、『保健・医療・福祉サービスが充実される』が72.2%と最も高く、次いで『生涯にわたる健康づくりが推進される』(61.0%)、『お年寄りの学習・社会参加が促進される』の38.9%などの順となっている。「そうは思わない」と回答した割合をみると、『経済的に豊かで、社会が活力に満ちている』が75.0%と最も高く、次いで『お年寄りの雇用・就労の場が確保されるようになる』(44.6%)、『公的年金制度の充実が図られる』(37.6%)などの順となっている。

中学生、高校生別に、中学生で「そう思う」と回答した割合をみると、『保健・医療・福祉サービスが充実される』が72.4%と最も高く、次いで『生涯にわたる健康づくりが推進される』(60.1%)、『公的年金制度の充実が図られる』(49.0%)などの順となっている。一方、「そうは思わない」と回答した割合をみると、『経済的に豊かで、社会が活力に満ちている』が69.2%と最も高く、次いで『お年寄りの雇用・就労の場が確保されるようになる』(45.9%)、『お年寄りの学習・社会参加が促進される』(33.4%)などの順となっている。

高校生で「そう思う」と回答した割合をみると、『保健・医療・福祉サービスが充実される』が72.0%と最も高く、次いで『生涯にわたる健康づくりが推進される』(61.8%)、『お年寄りの学習・社会参加が促進される』(43.9%)などの順となっている。一方、「そうは思わない」と回答した割合をみると、『経済的に豊かで、社会が活力に満ちている』が80.4%と最も高く、次いで『公的年金制度の充実が図られる』(44.3%)、『お年寄りの雇用・就労の場が確保されるようになる』(43.4%)などの順となっている。

表14 高齢社会の具体的なイメージ(問15:中学・高校生)

	総数	そう思う	そうは思 わない	わからな い	無回答
ア．経済的に豊かで、社会が活力に満ちている	1,980	87	1,485	399	9
	100.0	4.4	75.0	20.2	0.5
イ．お年寄りの雇用・就労の場が確保されるようになる	1,980	652	883	432	13
	100.0	32.9	44.6	21.8	0.7
ウ．公的年金制度の充実が図られる	1,980	766	744	460	10
	100.0	38.7	37.6	23.2	0.5
エ．生涯にわたる健康づくりが推進される	1,980	1,207	344	419	10
	100.0	61.0	17.4	21.2	0.5
オ．保健・医療・福祉サービスが充実される	1,980	1,430	311	230	9
	100.0	72.2	15.7	11.6	0.5
カ．お年寄りの学習・社会参加が促進される	1,980	770	598	600	12
	100.0	38.9	30.2	30.3	0.6
キ．安心できる、ゆとりのある住居が確保される	1,980	768	740	461	11
	100.0	38.8	37.4	23.3	0.6
ア．経済的に豊かで、社会が活力に満ちている					
中学生	954	52	660	238	4
	100.0	5.5	69.2	24.9	0.4
高校生	1,026	35	825	161	5
	100.0	3.4	80.4	15.7	0.5
イ．お年寄りの雇用・就労の場が確保されるようになる					
中学生	954	311	438	198	7
	100.0	32.6	45.9	20.8	0.7
高校生	1,026	341	445	234	6
	100.0	33.2	43.4	22.8	0.6
ウ．公的年金制度の充実が図られる					
中学生	954	467	289	194	4
	100.0	49.0	30.3	20.3	0.4
高校生	1,026	299	455	266	6
	100.0	29.1	44.3	25.9	0.6
エ．生涯にわたる健康づくりが推進される					
中学生	954	573	163	214	4
	100.0	60.1	17.1	22.4	0.4
高校生	1,026	634	181	205	6
	100.0	61.8	17.6	20.0	0.6
オ．保健・医療・福祉サービスが充実される					
中学生	954	691	140	119	4
	100.0	72.4	14.7	12.5	0.4
高校生	1,026	739	171	111	5
	100.0	72.0	16.7	10.8	0.5
カ．お年寄りの学習・社会参加が促進される					
中学生	954	320	319	311	4
	100.0	33.5	33.4	32.6	0.4
高校生	1,026	450	279	289	8
	100.0	43.9	27.2	28.2	0.8
キ．安心できる、ゆとりのある住居が確保される					
中学生	954	424	317	209	4
	100.0	44.4	33.2	21.9	0.4
高校生	1,026	344	423	252	7
	100.0	33.5	41.2	24.6	0.7

15 高齢期の心構え（問16、高校生）

高齢期の心構えについて、高校生の意識をみると、『若い時の気持ちを忘れないで暮らす』が40.9%と最も高く、次いで『できるだけ自分の考えどおりに暮らす』（29.2%）、『お年寄りらしくおとなしく暮らす』（11.6%）、『その他』（8.8%）、『家族など周りの人に合わせて暮らす』（8.3%）の順となっている。

性別にみると、男性が女性より割合が高いのは、『できるだけ自分の考えどおりに暮らす』、『お年寄りらしくおとなしく暮らす』、『家族など周りの人に合わせて暮らす』となっており、一方、女性が男性より割合が高いのは、『若い時の気持ちを忘れないで暮らす』となっている。

祖父母との居住形態別にみると、『できるだけ自分の考えどおりに暮らす』の割合は、別居で最も高くなっている。

表15 高齢期の心構え（問16：高校生）

	総数	若い時の 気持ちを 忘れない で暮らす	お年寄り らしくお となしく 暮らす	できるだ け自分の 考えどお りに暮ら す	家族など 周りの人 に合わせ て暮らす	その他	無回答
総数（人）	1,026	420	119	300	85	90	12
構成比（%）	100.0	40.9	11.6	29.2	8.3	8.8	1.2
性別							
男性	314	104	51	96	38	22	3
	100.0	33.1	16.2	30.6	12.1	7.0	1.0
女性	711	315	68	204	47	68	9
	100.0	44.3	9.6	28.7	6.6	9.6	1.3
無回答	1	1	-	-	-	-	-
	100.0	100.0	-	-	-	-	-
祖父母との居住形態別							
同居	424	172	50	112	43	42	5
	100.0	40.6	11.8	26.4	10.1	9.9	1.2
近居	120	53	13	36	8	9	1
	100.0	44.2	10.8	30.0	6.7	7.5	0.8
別居	432	173	49	142	31	33	4
	100.0	40.0	11.3	32.9	7.2	7.6	0.9
死亡	44	19	7	8	3	6	1
	100.0	43.2	15.9	18.2	6.8	13.6	2.3
無回答	6	3	-	2	-	-	1
	100.0	50.0	-	33.3	-	-	16.7

16 社会での子ども数について（問17：高校生）

少子化（社会での子ども数について）について、高校生の意識をみると、『今よりも子どもは増えた方が良い』が64.1%と最も高く、次いで『わからない』（16.9%）、『子どもの数は変わらない方が良い』（16.3%）、『今よりも子どもは少なくなる方が良い』（1.9%）の順となっている。

性別にみると、女性が男性より割合が高いのは、『今よりも子どもは増えた方が良い』であり、一方、男性が女性より割合が高いのは、『子どもの数は変わらない方が良い』となっている。

表16 社会での子ども数について（問17：高校生）

	総数	子どもの数は変わらない方が良い	今よりも子どもは少なくなる方が良い	今よりも子どもは増えた方が良い	わからない	無回答
総数（人）	1,026	167	19	658	173	9
構成比（%）	100.0	16.3	1.9	64.1	16.9	0.9
性別						
男性	314	65	10	165	72	2
	100.0	20.7	3.2	52.5	22.9	0.6
女性	711	102	9	493	100	7
	100.0	14.3	1.3	69.3	14.1	1.0
無回答	1	-	-	-	1	-
	100.0	-	-	-	100.0	-

17 社会保障に要する費用負担について（問18：高校生）

社会保障に要する費用負担についての高校生の意識をみると、『税金、保険料、利用者の自己負担は現状程度に止め、年金など支給内容を見直して対応すべきである』が31.4%と最も高く、次いで『わからない』（31.3%）、『税金や保険料は増えても止むを得ないが、利用者の自己負担を現状程度とする』（14.7%）、『必要なら、税金、保険料、利用者の自己負担のいずれが増えても止むを得ない』（11.3%）、『税金や保険料の負担は現状程度とし、利用者の自己負担を増やすのがよい』（5.1%）などの順となっている。

性別にみると、男性が女性より割合が高いのは、『必要なら、税金、保険料、利用者の自己負担のいずれが増えても止むを得ない』であり、一方、女性が男性より割合が高いのは、『税金、保険料、利用者の自己負担は現状程度に止め、年金など支給内容を見直して対応すべきである』となっている。

表17 社会保障に要する費用負担について（問18：高校生）

	総数	必要なら 税金、保 険料、利 用者の自 己負担の いずれが 増えても 止むを得 ない	税金や保 険料は増 えても止 むを得な いが、利 用者の自 己負担を 現状程度 とする	税金や保 険料の負 担は現状 程度と し、利用 者の自己 負担を増 やすのが よい	税金、保 険料、利 用者の自 己負担は 現状程度 に止め、 年金など 支給内容 を見直し て対応す べきであ る	その他	わから ない	無回答
総数（人）	1,026	116	151	52	322	51	321	13
構成比（%）	100.0	11.3	14.7	5.1	31.4	5.0	31.3	1.3
性別								
男性	314	46	50	21	79	16	99	3
	100.0	14.6	15.9	6.7	25.2	5.1	31.5	1.0
女性	711	70	101	31	243	35	221	10
	100.0	9.8	14.2	4.4	34.2	4.9	31.1	1.4
無回答	1	-	-	-	-	-	1	-
	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-